


第19号 長崎県障害者 社会参加推進センターNEWS

発行 長崎県障害者社会参加推進センター
〒852-8104 長崎市茂里町3番24号 県総合福祉センター内
TEL : 095-842-8178 FAX : 095-849-4703
Mail : hdcps-suishin@mbn.nifty.com

WEBで [長崎県障害者社会参加推進センター](#)

検索 

第22回 長崎県障害者芸術祭 in南島原市

令和4年12月4日、「第22回長崎県障害者芸術祭」を、はじめて南島原市にて開催しました。

昨年に続き“コロナ禍”ではありましたが、観客・出演者ともに人数制限をしながらも、地元の関係皆様のご尽力の甲斐あって、無事開催することができました。

新型コロナウイルスの感染状況によっては合唱の練習会を開催できない可能性を鑑みて、今年もメイン演目をベートーヴェン『第九』ではなく、『大地讃頌』や『花は咲く』といった馴染みある曲に変更し、団体ごとに分かれて練習を積み重ねてきました。

当日は、オーケストラとの合唱をはじめ、様々なステージ演目、多くの個性あふれる作品を、ご来場の皆様に楽しんでいただくことができ、様々な規制はあったものの、大成功といえる開催となりました。



「障害平等研修」の推進

長崎県障害者社会参加推進センター所長 土岐達志

ながさき たいかい かいさい へいせい
長崎がんばらんば大会が開催された平成26
ねん ぜんこく ぼんめ しょうがいしゃ さべつきんしじょうれい
年、全国で7番目となる障害者差別禁止条例が
しこう
施行されました。

じょうれいせいいていご けんみん りかいそくしん ながさき
条例制定後は、県民への理解促進のため「長崎
しょうがい た あ ほりつ じょうれい けいはつ
障害フォーラム」を立ち上げ、法律や条例の啓発
かつどう とく
活動に取り組んでいます。

いっかん ぎょうせい かくしょうがいしゃだんたい れん
その一環として、行政や各障害者団体などと連
けい しょうがいびょうどうけんしゅう く い けんしゅう じぎょう
携し、『障害平等研修』を組み入れた研修事業
じっし しょうがいびょうどうけんしゅう ほりつ
を実施してきました。障害平等研修とは法律や
じょうれい かんが かつ すいしん けんしゅう しょう
条例の考え方を推進していくための研修で、障
がい しょうがいしゃ こじん もんだい しゃかい さま
害を障害者個人の問題としてではなく、社会の様

さくねん ないかくふ しょうがいしゃ さべつ かん よろんちょうさ
昨年の内閣府の障害者差別に関する世論調査
によると、差別や偏見が「ある」「ある程度はある」
との回答が計88.5%に上りました。共生社会づ
め ぎょうせい しょうがいしゃ さべつかいしょうほう へいせい ねん し
くりを目指す障害者差別解消法が平成28年に施
こう いたさくねん とうきょう かいさい
行され、一昨年に東京パラが開催されましたが、
しょうがい りかい いぜん ひろ じつたい
障害への理解が依然として広がっていない実態
あき さら けん ちょうさ ごうり
が明らかになりました。更に、県の調査では合理
てきはりよ し わりあい やく
的配慮について「知らない」とする割合は約58%
りかいど ひく しょうがいびょうどうけんしゅう
と理解度はまだ低く、障害平等研修などによる
けんみん けいはつかつどう いっそうひつよう じょうきょう
県民への啓発活動が一層必要な状況にあります。
こんご ふくし きょういく いっかん しょうちゅうがっこう
今後は、福祉教育の一環として小中学校で

ざま ぎづ しょうがい しゃかい してん
々なバリアーに気づき障害の社会モデル視点の
かくとく きょうせいしゃかいじつげん め ぎ
獲得につなげ、共生社会実現を目指すものです。

だい かいめ けんしゅうかい へいせい ねん がつ ぎょうせい しゃ
第1回目の研修会は平成27年11月、行政・社
きょう しょうがいしゃ ふくし かんけいしゃやく めい たいしやう じっし
協・障害者や福祉関係者約60名を対象に実施し
いらい しょうがいしゃ ぞうだんいけんしゅう ぞうだん し えんじゅう じ
ました。以来、障害者相談員研修、相談支援従事
しゃしよにんしやけんしゅう じ ちたいよくいけんしゅう とうきょう
者初任者研修、自治体職員研修、東京オリパラ・
けんしゅう しょうがいしゃだんたいけんしゅうかい けんない
ボランティア研修、障害者団体研修会など、県内
ぜんいき ふくおか し おきなわけん じっし
全域、福岡市や沖縄県でも実施させていただきま
した。しかしながら、7年間に渡る50会場での受
こうしゃ やく にん けんみん りかいそくしん
講者は約2,800人と、県民への理解促進にはまだ
まだほど遠い状況にあります。

でまへけんしゅう びんかん じぎょうしゃ しょうがいびょうどうけんしゅう
の出前研修や民間事業者への障害平等研修、
ファシリテーター養成などしっかり取り組んでいか
なければなりません。

ぎょうせい かんけいきかん しえん へいせい
行政はじめ関係機関のご支援により、平成11
ねん かいさい しょうがいしゃげいじゆつさい らいねん ど さ
年から開催している障害者芸術祭も、来年度佐
せぼし かいめ れいわ ねんど
世保市で23回目となります。また、令和7年度に
こくみんぶん かさい ぜんこくしょうがいしゃげいじゆつ ぶん かさい ほんけん
は国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭が本県
かいさい しょうがいしゃ ぶん かげいじゆつしんこうおよ じゃ
で開催されます。障害者の文化芸術振興及び社
かいさん かそくしん ほか きょうせいしゃかいじつげん せんざいいちく
会参加促進を図り、共生社会実現への千載一遇
のチャンスです。

ひ ごろの感謝と今後の決意を申し上げ、ご挨拶
いた
と致します。

第22回長崎県障害者芸術祭レポート

南島原市で初めて開催した長崎県障害者芸術祭のステージは、じねん(山陰会 自然寮)さんによる「先踊り」からはじまり、「心の輪を広げる体験作文」の朗読(県立東中学校 島村香春さん)、わたぼうしコンサート大賞作品(作詞:中川靖子さん、作曲:吉田和男さん)の披露がありました。続いて、初参加のトカトカ・ドン(悠久会 銀の星学園)さんと楽しいリズムを共有し、久々の登場となった、つくしミュージックバル(諫早市手をつなぐ育成会)

さん、ほかにわ共和国ヘルマン隊さんの演奏では、澄んだ音色に心を癒されました。また、平戸手話



サークルの皆さんによる手話ソングは、手話の魅力が大いに伝えるものでした。さらにはチェリーブラスサムさんによる車いすダンス、出野涼香さんによる歌は多くの方を魅了し、まさに多種多様、盛りだくさんな演目が登場しました。

また、ベートーヴェン『第九』がなくなってしまった分、障がい者の皆さんにオーケストラの演奏を楽しんでもらう機会にしようと、諫早交響楽団の皆さんによるオーケストラステージも催しました。なじみある曲の数々を生演奏で聴くことができ、来場者も大満足の様子でした。

ロビーで開催した「作品展」では、島原半島を中心に、県内から59点の作品が集まり、絵画、大型造形作品、書道など、個性あふれる作品たちが展

示されました。来場者の投票をもとに選出した3点の優秀作品への表彰も行いました。

最後を締めくくったのは、島原半島を中心に集まった障がいのある方を含む約80名の合唱団と、諫早交響楽団の皆さんによる合唱ステージです。河地良智先生の指揮のもと、『大地讃頌』、『四季の歌』、『花は咲く』、アンコールの『故郷』を歌いあげました。練習では感染対策で様々な規制もありましたが、最後には心を合わせて歌い、音楽を通じて心の交流を得ることができたように感じました。

次回は佐世保市にて開催の予定です。また多くの皆さんにご参加いただけますことを楽しみにしております。



第22回長崎県障害者芸術祭が南島原市で開催が決まり、ホームおばまの森からは8名が参加させていただきます。

本番に向けて8月から練習が始まり、最初の練習では不安で緊張していましたが、ホームまで度々お越しくださり、ご指導いただきました先生方のおかげで日を追うごとにリラックスして練習に励むこと

ができました。時折、笑い声も聞こえてきました。

前日リハーサルで本番での立ち位置が、最前列だとわかり、不安と緊張が一気にこみ上げてきましたが、本番直前までメンバーと職員で声を掛け合い、いざ本番！皆様の力をお借りしながら、練習の成果を出し切り、会場の皆様方から大きな拍手をいただくことができました。

本番を終えたメンバーの表情は明るくキラキラしており「本当に楽しかった」「また参加したい」「こんな体験ができてよかった」など、素直な気持ちを話されていました。

芸術祭の開催に携わった方々、指導して下さった先生方、素晴らしい体験をさせて頂いた事に感謝します。

おばまの森 ホームおばま



芸術祭に参加して

私には3月で大学を卒業するお兄ちゃんがいます。遠くで働くお兄ちゃんに今まで私を支えてくれた感謝の気持ちを伝えたいと思い、自分が大好きな歌うことで障害者芸術祭に参加したいと思うようになりました。そこで3か月前から「変わらないもの」の歌の練習を始めました。発声練習を毎日行って、言葉をハッキリ言えるようになり、高い声が出せるようになりました。本番では照明がまぶしかったですが、客席にいたお兄ちゃんの顔が見えました。ちょっと恥ずかしくて笑ってしまいましたが、久美子先生と朝ちゃんと3人で最後まで歌うことができました。そしてピアノを弾いてくれたりんこちゃんとは、前の日に1回しか練習しませんでした。りんこちゃんが私の歌に合わせてピアノを弾

いてくれたので、とっても歌いやすかったです。皆さんに「感動したよ」と言われたこと、家族の皆に喜んでもらったことがとてもうれしかったです。コスモス会の皆とたくさん練習して歌った大地讃頌ほかの合唱も上手に歌うことができたと思います。私の大切な思い出となりました。

最後に芸術祭に参加して、私は練習することの大切さを感じました。これからもずっと大好きな歌を歌っていきたいと思います。 出野涼香



第22回長崎県障害者芸術祭ステージ演目をWEB配信動画にてお楽しみいただけます。

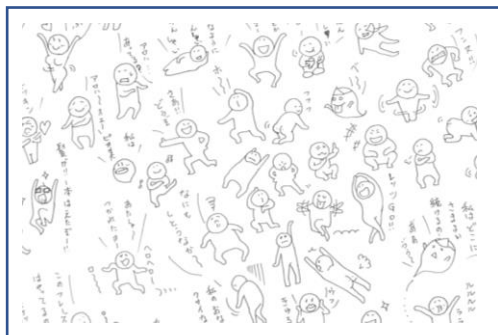
★WEB配信はこちらから



<https://youtu.be/vOAeU-Udz-4>



第22回長崎県障害者芸術祭作品展にて優秀賞を受賞した3作品をご紹介します



西山みち子さん(佐世保市)
「小さな人達」



石川智広さん(南島原市)
「大好きなマッキーマジック」



鈴木一弘さん(島原市)
「キーホルダー」

長崎県障害者芸術文化活動普及支援事業

令和2年度から始まった「長崎県障害者芸術文化普及支援事業」では、令和7年度、本県で開催される全国障害者芸術・文化祭に向け、事業所内でとどまっているアート活動を外に押し出し、障がいのある方によるアートの魅力を地域社会に発信していく取り組みを、一層支援していこうと、セミナーの開催、相談窓口の運営、ホームページでの作品介绍・情報発信、さらに発表機会に対する助成事業を実施しています。

◆セミナー開催◆

昨年度、県下4地区で開催した「セミナー & フォーラム」にて、60名・45事業所のみなさんからお聞きした課題、困り感を少しでも解消できるよう、今年度は課題・分野ごとに3つのセミナーを開催しました。

支援者向けステップアップセミナーⅠ

障がい者アートの魅力発信を学ぶ～展示会実践編～

2022.9.22、10.6 @諫早市美術・歴史館ほか

9月に開催された公募展「アールブリュット・フェスティバル2022」とタイアップし、その展示作業に実際に参加して、作品を魅力的にみせる展示の考え方やコツ、工夫などを学びとり、事業所内にとどまっているアート活動を対外に発信する機会を創出する取り組みにつなげてもらう目的で、実践研修を開催



支援者向け導入セミナー 創作体感&展示ワークショップ

2023.1.25 @長崎県美術館

これから障がいのある方の創作活動を支援していきたい方々を対象に、実際に創作や展示を体感・体験することで、アート活動への理解を深め、今後の関わり方を考えるセミナーを開催



支援者向けステップアップセミナーⅡ

障がい者アートの魅力発信を学ぶ～商品化編～

2023.2.13 @長崎ブリックホール

障がいのある方のアート作品等を商品として地域へ発信し、その魅力を広めていきたいと考える方々を対象に、アートを用いた収益化事業の様々な形について知り、また商品として活用するうえで欠かせない著作権などの知識・対応方法を学ぶセミナーを開催

◆発表の機会確保事業助成事業◆

障がいのある方々によるアート活動をより活性化させるとともに、その魅力を地域に発信していこうと、創作活動・表現活動を外部に発表する取組みを支援する助成事業を実施しました。今年度は2つの事業が参加しました。

アールブリュット・フェスティバル2022 <社会福祉法人南高愛隣会>

2022.9.23-25 @諫早市美術・歴史館
九州で活躍する作家の招待作品と県内からの公募作品あわせて約300点を展示

福祉施設と協働での映像制作および上映会開催 <NPO法人BaRaKa>

2023.1.28 @SlowCafeたゆたう。(五島市)
五島市在住の作家・原塚祥吾氏の作品が生まれる背景に迫った映像の制作・上映



地域生活支援事業

家族相談員機能強化事業

家族相談員の養成や資質の向上を図ることを目的として、年2回開催しました。

1回目は、5月26日、県総合福祉センターにて、全国組織「みんなねっと」で開催されているeラーニング講座「家族相談で大切にしたいこと」を、25名が受講しました。同じ家族の立場として相談を受ける時に心しておくべき5つのことを学び、大変意義のある研修となりました。

2回目は、3月1日、県総合福祉センターにて、23名が参加し、今回も講師に長崎県相談支援専門員協会 代表 藤井 修 氏をお招きし「自立と社会参加～地域共生社会の実現にむけて～」と題してご講演いただきました。「自立と社会参加」に焦点を当て、「相談支援の基本的視点」・「意思決定支援」・「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」等について多くを学ぶことができました。

県精神障害者家族連合会

第2部では精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの推進にむけた「ピアサポート」というテーマで演習をしました。

相談員の役目は奥が深く、背景にあるものに適応した対応や配慮等寄り添った支援ができるよう、相談員としての資質の向上の為にも研修会の継続の必要性を改めて感じました。ピアサポーターとしての活動が地域をつくり、地域を変えていく原動力になると信じて今後も活動して行きます。



令和4年度精神障害者スポーツ大会を振り返って

11月17日、シーハット大村にて開催しました、令和4年度精神障害者スポーツ大会は、県及び大村市からのご来賓を始め、多くの関係機関の皆様方からの温かいご声援の中、成功裡に終了することができました。

長引くコロナ禍の中、今年度の大会につきましては、皆様方から様々なご意見をいただき、何度も協議を重ねたうえでの開催となりました。風船バレーには5チーム、ソフトバレーには6チーム、総勢255名の皆様にご参加いただき、3年ぶりの大会を盛り上げていただきました。また、協力スタッフの皆様方には、感染対策を講じながらの大会運営となり、大変なご負担をお掛けすることになりましたが、大会後の感染者の報告や怪我もなく、参加チームの皆様には有意義な時間となり、明日への活力としていただけたのではないかと思います。

感染対策の為の制限がある中でも、選手の皆さんは大ハッスルのプレーを披露してくれ、寒さも吹き飛ばす白熱した試合が展開され、「風船バ

県精神障がい者福祉協会

レー」の部では初参加の「ゆみはり会」、「ソフトバレー」の部では「アゲハ蝶」が優勝し、それぞれのチームの優勝と、全てのチームの健闘を称え、大会は静かに幕を閉じました。

コロナ禍にも関わらず、開催に当たりご尽力をいただきました関係機関、実行委員、ボランティアの皆様方のご協力に対しまして、この場をお借りして改めて厚く御礼を申し上げます。



『知的障害のある本人による『障害を知る・可能性を見るプロジェクト』』

「知る見るプログラム」開催

県手をつなぐ育成会

令和4年度の「知る見るプログラム」は、当初、国立諫早青少年自然の家で計画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、昨年に引き続き宿泊なしで7月16日に開催しました。会場は県総合福祉センターの大会議室で広々とした環境で行われました。参加者は長崎市育成会11名、西海市育成会5名、諫早市育成会4名、支援者・事務局9名で、4グループに編成されました。

ワークショップの内容は、①「好きなもので集まれ」②「わたしの歴史」、昼食をはさんで、③「さいころトーク」④「みんなで話し合ってみよう」⑤「リ

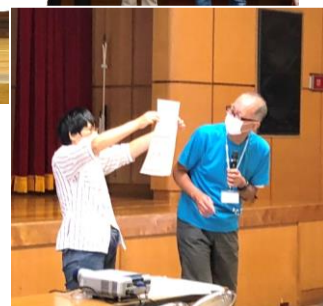
ラックス体操」⑥「いやって言ってみよう」でした。みなさん、最初は硬かった表情もワークショップが進むうちに打ち解けて、和やかな表情に変わっていき、会場の広さもあってか、のびのびとした雰囲気で行いました。

司会進行も本人たちで交代しながら、発表もグループ内での個人発表と、グループごとに全体発表があり、時には先を争い、また譲り合いながら、積極性と協調性を発揮しつつ、対人関係の学びを深め、自己理解と視野を広げる素晴らしい成長の一日となったようです。

<参加された本人さんから>

ワークショップ“好きなもので集まれ”「いぬ」「ねこ」「その他」「嫌い」で各グループに分かれました。僕は、以前犬を飼っていたので「いぬ」が好きと答えました。ワークショップ“サイコロトーク”では一番盛り上がりました。「仕事」「趣味」「友達」「家族」などに合わせてみんなで話し合いました。ワークショップ“いやって言ってみよう”では支援者、本人、お母さんに分かれて劇をしました。僕も劇のようにお母さんが話をするのが多いので僕にも決めさせてほしいと思いました。

僕はみんなに会うのが5年ぶりだったのでみんなが僕のことを憶えているのか心配でしたが、話しかけてくれました。嬉しかったです。



盲ろう者向け通訳・介助員養成研修事業

県ろうあ協会

盲ろう者向け通訳・介助員養成研修事業「養成講座」を、対馬市交流センターにて、9月24日～1月21日に実施しました(全54時間)。申込み者は5名。再受講の方もいて、和やかな雰囲気がありました。



初日は台風による欠航が予想されたため、急遽、映像配信による講義に切り替え、受講生には次の講座までに視聴し、レポートを提出してもらいました。

また、昨年度に引き続き、オンラインによる講義も取り入れました。受講生の様子が見えるよう、現地にいる講師がカメラが見える位置に設置したり、音声がか聞こえにくい等のトラブルに対応し、会場での講座と同じように実施できました。

実習では地元の盲ろう者に協力をお願いし、触手話や、移動介助の体験を通し、情報保障の必要性や安全配慮など実際の現場をイメージしながら学ぶことができました。

パソコンボランティア養成・派遣事業

県視覚障害者協会

長崎県視覚障害者協会では、今年度初めて「Rivo2講習会」を実施しました。

Rivo2とは、iPhone、iPadをタッチ操作なしで操作できる、Bluetooth接続の携帯型キーボードです。視覚障害者は画面の文字や実行した動作を音声で教えてくれる「ボイスオーバー」を活用することでiPhoneを操作していますが、タッチスクリーンでの操作にはいろいろなジェスチャーがあり、使いこなすのはかなり大変です。iPhoneをもっと確実に、そして手軽に使用したいという視覚障害者の要望に応じて、「Rivo2講習会」を計画しました。

講習会では、まず文字入力や電話の受発信、音楽の再生等、Rivo2のできることの紹介、キー配

列と各部の名称の確認、そして実際にRivo2を操作することにより、文字入力が容易になることを体験してもらいました。

今回参加された7名の受講者のスキル・環境は様々でしたが、すべての方が意欲的に取り組んでおられたことに、改めてこのような講習会の必要性を感じることができました。



長崎県相談支援従事者研修事業

今年度も県の指定を受け、初任者研修・現任研修を実施しました。

令和2年度の制度改正後、新型コロナウイルス感染症が発生し、研修会開催に何かと支障がありましたが、今年度は対面式の演習を初任研、現任研、共に行うことができました。受講生も他の事業所や同じ圏域の方々との交流でき、計画(案)にアドバイスを受けたり、日頃の悩みを相談したり、ネットワーク作りができた大変喜んでいました。

まだまだ課題は山積していますが、今後も試行錯誤しながら講師の皆様のご協力を得て取り組んでまいります。



《初任者研修》

講義：9月6日・7日オンライン(修了者:177名)

演習：9月13日・14日、

10月13日、11月9日・10日

会場 アルカディア大村(修了者:59名)

《現任研修》

講義:10月7日オンライン

演習:10月19日、11月16日、12月14日

会場 アルカディア大村(修了者:63名)



《事務局より》令和4年度も当センターの事業にご理解ご協力を賜りありがとうございました。コロナ禍でオンラインでのやりとりが浸透した一方、声をあわせて歌ったり、顔をあわせて学びあう機会もだいぶ戻ってきて、対面での交流の良さを改めて感じた1年になりました。今後もオンライン、対面、と柔軟かつ適切に対応しながら、事業の推進を図っていきたくと考えております。